

学校名	横浜市立金沢小学校
活動名	海の環境教育 ～海との豊かな関わり～
教科	生活科及び総合的な学習の時間
学年	1～6年

【第1学年】地域とつながる～黒鯛稚魚放流会～

春には全校遠足「マリンフェスタ」、夏には砂浜で造形遊び、秋には草原で虫探し、冬には凧揚げと、波の音、海の様子、海の匂い、砂の感触、風など、五感を通して海を肌で感じている子どもたち。秋には、平潟湾で働く方々との出会いや交流を通して、さらに海への愛着を感じる体験的な活動している。東京湾黒鯛研究会の方々と交流による「黒外稚魚放流体験」だ。小さなバケツに小さな黒鯛の稚魚をもらい、橋の上から放流する。黒鯛の成長過程やえさになる生き物、稚魚放流の仕事のことを教えてもらった。学校の戻り、黒鯛の赤ちゃんに手紙を書いた。「元気に大きくなってね。」など、自分たちの体験を絵や文で表現した。



【第2学年】地域を見直す～海の宝物でランプづくり～

まちたんけんを通して、自分たちの学区には海と山もあり、自然が豊かであることを実感した子どもたち。野島山に登り、展望台から学区を見渡し、海が近いことを改めて感じたり、海の公園の砂浜で遊んだり、お気に入りの貝殻を見付けたりして、あらためて、自然の豊かさや美しさを感じた。海があることがまちの特色であることに気付き、海で拾った貝殻で造形活動を通して、海への親しみを深めている。空き瓶に紙粘土で貝殻をつけたランプは、校内の作品展に展示し、保護者や地域の方々に見てもらった。



【第3学年】地域とつながる～海の生き物観察会～

全校遠足「マリンフェスタ」を経て、子どもたちから「海にはどんな生き物がいるのだろう」という疑問が生まれた。学区には、横浜唯一の自然海岸がある。八景島シーパラダイスの方々の協力していただき、干潟やそこに棲む生き物についての説明を聞き、生き物採集という体験的活動を行う。さらに、深い場所に棲む生き物にも興味をもち、地引網をしたり、ペットボトルビンドウやプランクトンネットを作ったりして、生き物や海藻類の特徴など、調査活動を通して分かったことを図鑑や地図などにまとめ、発表をした。まちの様々な人たちがよりよい海にするために努力していることに気付き、自分たちも大好きな海と海岸、海の公園に関わる活動に進む姿が見られた。



【第4学年】地域とつながる～学校でもアマモを育てよう～

砂浜の清掃活動や海の生き物の生態を学び、生き物が棲みやすい環境に興味をもった子どもたち。アマモ場を広げることで海の環境をよくしようと地域で活動している「東京湾アマモ場再生会議」の方々の取組に触れ、自分たちもアマモを育ててみたいという思いをもち、学習が始まった。アマモについて調べる中で、ワカメも海の環境をよくするものだと知り、八景島シーパラダイスの方から話を聞いたり、ワカメが育つ経過を観察したりした。アマモやワカメを通して学んだ海の環境についてリーフレットにまとめて伝えた。地域の活動に積極的に参加し、地域の方との交流しながら、環境への意識を高め、環境とつながりのある様々な課題を解決しようとした。



【第5学年】学習をつなげて～金小米でおにぎりづくり～

自分たちで育てた金小米をよりおいしく食べるために、おにぎり大作戦の計画を立てる。「金小米作りに挑戦」の学習を関連させ、自分たちの地域で生産されている海苔や食塩に目を向け、それを生かした調理方法などを考えて実際に食し、それまでの苦労や食の大切さを実感した。おにぎりに使う食塩を作るために、塩づくりについて調べ、海水から食塩を取り出した。おにぎりに使う海苔を作るために、「ともに浜をつくる会」の方々に教えてもらいながら海苔づくり体験をし、自分たちで作った米、食塩、海苔を味わった。



【第6学年】学習をつなげて～深海から地球のなぞにせまる～

海が山から川をつたって注いでいることを実感した子どもたち。その先を進んだ深海とはどんな世界なのか興味をもった。海洋研究機構 JAMSTEC の方々の協力を得て、水圧や温度の高い環境にも生物が存在していることや、水中深くに存在する海底が動いて地震が発生することなど、自分たちの生活と一見無関係に見える深海との関わりを学んだ。海についての疑問から課題をもち自分たちで探求する活動を通して、自分と他者との関わりや自分と自然との関わりに気付いた。講師から学んだことを基に、JAMSTEC 横須賀本部を実際に見学し、見学で知ったことを生かして海の環境について話し合い、自分の考えをまとめ、表現方法を工夫してまとめた。

